

日本地域理学療法学会 トピックス

2020年10月20日

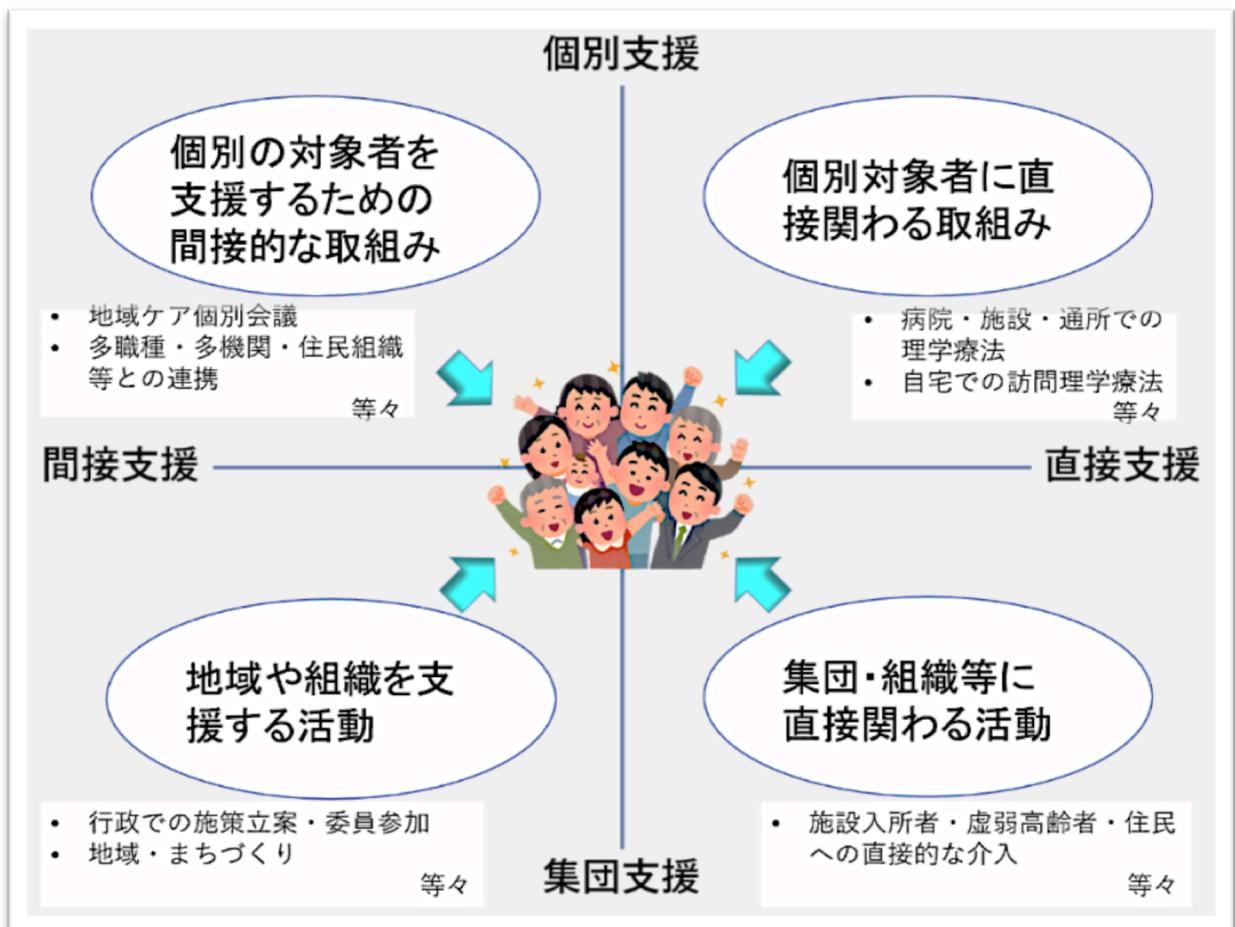
代表運営幹事 浅川康吉

【若手理学療法士への期待】

日本地域理学療法学会は2019年12月に京都市で開催された「第6回日本地域理学療法学会学術大会」において地域理学療法学の定義(学会原案)を発表しました。これにあわせて地域理学療法学の実践領域として「個人-集団」という軸と「直接-間接」という軸を直行させた4つの領域を示しました。

定義

地域理学療法学とは、動作や活動への多面的な働きかけにより人々が地域での暮らしを主体的につくりあげられるよう探究する学問。



実践領域

若手理学療法士には特に実践領域をしっかりとみていただきたいと思います。そして働く場、働き方として興味・関心をもつところがあればぜひ日本地域理学療法学会学術大会に参加し、先輩諸氏と大い

に議論していただきたいと思います。“定義と実践領域を早急に見直さないといけない”ベテランたちにそんなふうに見えるような活躍を若手理学療法士に期待しています。

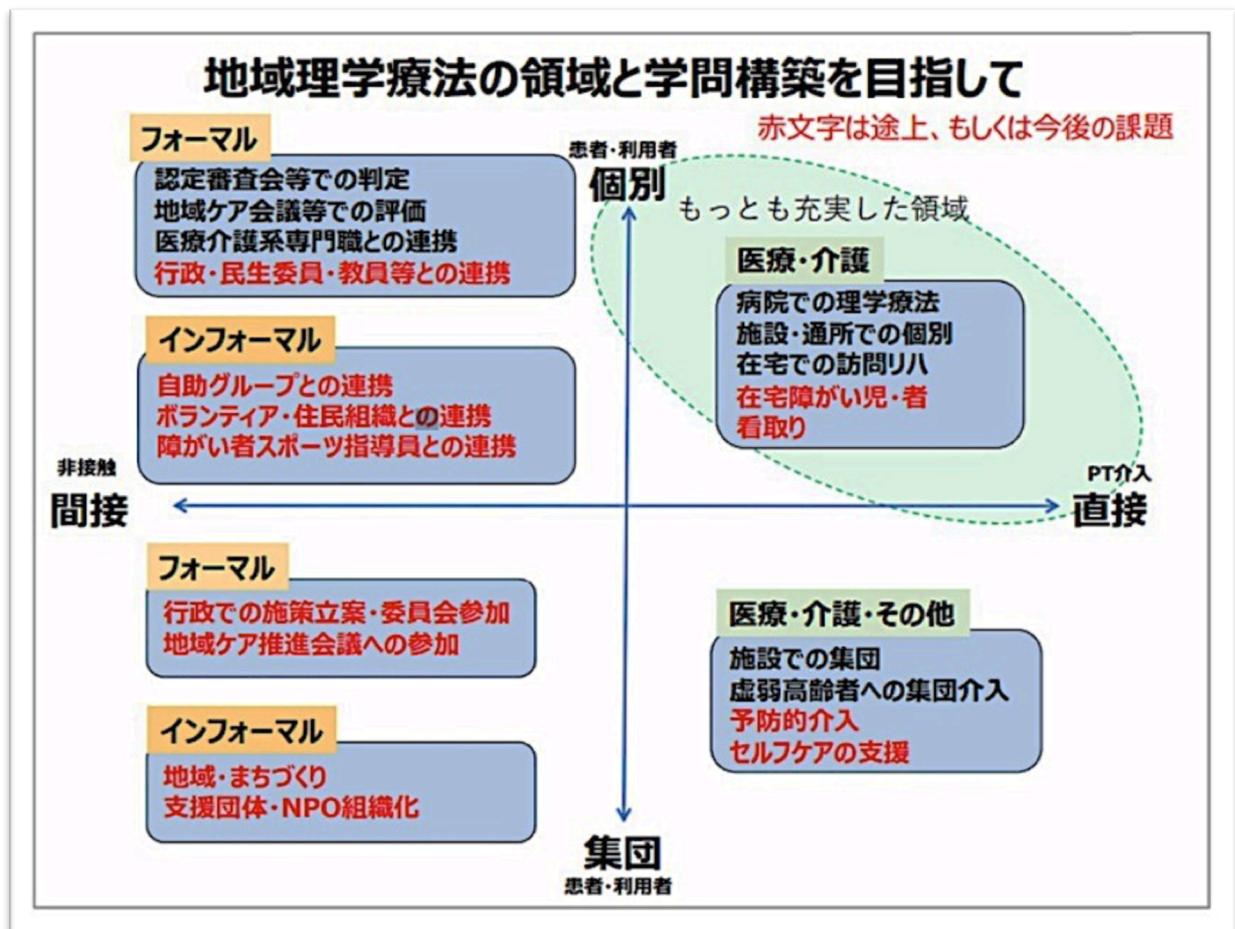
【関連領域との共通点と差異】

2019年度トピックス(2019年3月28日公開)では地域理学療法学の領域と学問構築について以下の図を紹介させていただきました。学会としてはこの図を念頭に関連領域との共通点と差異を意識しながら地域理学療法学の構築を進めていきます。

個別・直接支援の分野においては疾患別リハビリテーションの分野に対応した各分科学会・部門の研究との共通点が多くあります。集団・直接の領域では喫緊の課題として地域リハビリテーション活動支援事業などに関わる研究が求められており、地域在住高齢者を対象とする予防理学療法研究などの共通点が増えています。個別・間接と集団・間接といった間接領域の研究に関してはまだ知見は乏しいですが、本学会では直接支援の効果検証に加え、地域包括ケアにおける互助・自助形成プロセスなど間接支援の効果検証にも積極的に取り組む予定です。

<地域包括ケア時代の地域理学療法 2019年度トピックス(2019年3月28日公開)>

http://www.japanpt.or.jp/upload/jspt/obj/files/topics/topics_tiki1903.pdf



【最近のトピックス】

1. 第7回日本地域理学療法学会学術大会

地域理学療法学の構築に向けて～地域理学療法学の展開と連携における主眼点～をテーマに掲げました。本学会の井上常任運営幹事が学術大会長を務め日本地域・支援工学・教育合同理学療法学会学術大会として2020年11月7日(土)～8日(日)にオンライン開催します

2.COVID-19 特別チーム

http://jspt.japanpt.or.jp/jsccpt/covid_info/

日本理学療法士学会のCOVID-19 特別チーム編成について本学会では平野、牧迫両運営幹事が担当し5月よりCOVID19 特別チームを構成し、活動しております。現在まで9つの班に分かれ、それぞれの分野ごとに情報収集し、HP上で情報発信を行なっています。

3.理学療法診療ガイドライン

日本理学療法士学会協会の理学療法診療ガイドライン第2版の作成に向けて、本学会では池添運営幹事と牧迫運営幹事のもとシステマティックレビュー班などを構成し、外部委員の協力も得て作業を進めています。

【今後の展望】

地域社会の姿は少子高齢化や人口減少を受けて大きく変わりつつあります。そして暮らしの様相もICTなどの科学技術の発展を受けて大きく変わりつつあります。地域での暮らしに焦点をあてた実践や研究はこれからますます多様化すると思われ、本学会の果たすべき役割もますます大きくなっていくと思います。会員諸氏には地域理学療法学の発展に向けて引き続きご支援ご協力を賜りたく存じます。

以上